

現地農業情報（沖永良部島・与論島）令和7年10月

（１）沖永良部地区青年農業者会議を開催

9月29日、和泊町えらぶ長浜館で沖永良部地区青年農業者会議が開催されました。同会議は、クラブのプロジェクト活動の成果発表や、自らの経営や農業に対する意見発表を行い、クラブ員相互の農業経営に役立てるとともに、地域農業の活性化を図ることを目的とし毎年開催されています。今年の発表者は個人プロジェクト1名、共同プロジェクト2名、意見発表2名でした。会議の終わりには指導農業者士らから青年へ激励の言葉があり、出席した青年農業者達は、やる気を漲らせていました。



（２）沖永良部地区の今期さとうきび収量見込みが算出される

沖永良部島の今期さとうきび収量見込みが算出されました。令和7/8年期のさとうきび生産量は94,870tで2年連続90,000tを超える見込みとなり、単収は5,280kg/10a、収穫面積は1,797haの見込みとなりました。圧搾は12月1日に開始され、圧搾期間は洗缶日など休止の日を除き110日間の予定です。今期も計画通りに製糖作業が終了するように、関係機関と連携し農作業安全にも留意しながら、農家への助言・指導を行っていきます。

（３）県畜産共進会へ与論島から2頭を初めて出品

10月4日に始良家畜市場で開催された県畜産共進会で、与論島からは、これまで1頭の出品でしたが、今回は初めて2頭を出品しました。出品牛は9月30日にフェリーで与論島を出発し、10月1日に始良家畜市場へ到着しました。生産者、JA、町および農業普及課が一丸となって、共進会当日に向けて準備に取り組みました。残念ながら目標としていた最優秀賞の受賞は逃しましたが、今後とも引き続き肉用牛の振興に努めてまいります。

（４）ジャガイモシストセンチュウ対策研修会を開催

9月7日と10月3日に、知名町及び和泊町の生産者185人が出席した園芸振興会総会で、ジャガイモシストセンチュウ対策に関する説明が県園振協本部から行われました。シストセンチュウの発生拡大と県内品種の抵抗性の問題が共有され、抵抗性品種「しまあかり」の導入が進められることが理解されました。また、知名町のばれいしょ出荷業者にも対策を周知し、課題解決への協力を呼びかけました。今後も関係機関と連携し周知活動を続けていきます。

（５）和泊・知名両町青年クラブがそれぞれ共同プロジェクトを実施

青年クラブの共同プロジェクトとして、和泊町では10月9日にかぼちゃの定植を行いました。今回はマルチ無しとマルチ有りによる生育の比較を調査して行く予定です。知名町では10月18日にハウスの準備作業やパッションフルーツの定植を行いました。今後、仕立て法での収量や作業性の違いを調査していく予定です。両町ともにクラブ員の積極的な参加が見られ、一丸となって活動に取り組んでいました。農業普及課としても引き続き青年の活動を後押ししていきます。



(6) 令和7年度農業・農村センスアップセミナーを開催

9月29日、沖永良部地区農業改良普及事業協議会及び、各町担い手育成総合支援協議会共催で「農業・農村センスアップセミナー」を開催し、農業者、関係者およそ60名が参加しました。本年度は龍郷町において担い手の減少や、高齢化・過疎化が進む中、地域作りに取り組む「一般社団法人E'more秋名」の取組について代表の村上裕希氏に講演をいただき、地域づくりへの機運醸成が図られました。今後も引き続き、関係機関と連携して担い手育成支援に努めていきます。



(7) ニンニク栽培講習会を開催

10月14日にJA和泊営農販売課会議室にてニンニク栽培講習会を開催し、生産者や関係機関・団体合わせて27人が参加しました。JA担当者から栽培の一連の作業ポイントの説明があった後、農業普及課から病害虫の見分け方と防除方法の説明を行いました。特にネダニについては防除方法に関する相談が多いため、防除の要点を1枚にまとめて生産者に配布しました。また、昨年発生があったほ場は、種子消毒や薬剤の土壌混和を行うよう呼びかけを行いました。